

授業を構成するに当たっての工夫例

授業日：平成 28 年 11 月 14 日(水)

教科名：外国語活動 単元名「 Lesson6 Let' s go to Italy」

1 小中連携への工夫

学びのつながり（小中連携を意識した授業づくり）

- 教師の使う、クラスルームイングリッシュは、中 1 教科書「TOTAL・ENGLISH」P,8「Classroom English」から使用する。
- ALTや専科の教員が T 2 として活動に入り「英語を話すモデル」となることで、児童に中学英語への期待を高める。

2 学習の中での絵本の活用例や導入の工夫

学習活動	○指導・支援	時間
<p>1 国名の言い方や、どの国の世界遺産か考える活動を通して、単元の学習の見通しを持つ。</p> <p>① 絵本My cat likes to hide を聞く。 ② () に国名を書く。 ③ どの国の世界遺産か考える。 ④ 「先生の行きたい国」クイズをする。 ⑤ チャンツ♪Let's go to Italy part1 をする。 ⑥ キーワードゲームをする。</p>	<p>○ 絵本"My cat likes to hide boxes"を読み聞かせ、学習への動機付けを与え、学習意欲を高める。</p> <p>○ 体験的な活動を通して、英語での国名の言い方や世界遺産のことなどを知らせる。</p> <p>○ 「先生の行きたい国クイズ」をして、I want to eat~ I want to see~などの表現を教える。単元の最後には自分たちも行きたい国をPRする活動を行うことを伝え、動機付けを図る。</p>	1

3 考察

英語を話すことに抵抗があったり、前に出て発表したり、コミュニケーションを取ることを苦手としたりする児童のために、単元の中に様々な工夫を取り入れた。例えば、チャンツ、様々なアクティビティの導入、絵本の読み聞かせなど。これらの活動を段階的に取り入れ、また、楽しみながら、少しずつレベルを上げていくことで自然と英語に言い慣れていくことができるよう工夫した。また、中学から始まる英語への期待を高めたり、流暢な英語に触れる機会を作ったりするために、英語専門の教師とのTTを取り入れた。これらの活動は、目標に迫るための充実した外国語活動、そして中学英語につながることへの効果があったと考える。

単元の最後に、総合学習で作成した、「自分のおすすめの国のパンフレット」を英語で紹介し合う活動を行った。自分の思いを込めたパンフレットを紹介しあう活動は、普段あまり話をしない友達とも関わり合ったり、発表の苦手な児童も一生懸命、アピールしたりする姿を見ることができた。